

# 中学校社会科における映像資料についての研究

## —地理的分野を中心として—

伊藤 千瑛

### 1. 論文構成

序章 問題の所在と目的

第1節 問題の所在

第2節 研究の目的と方法

第3節 論文の概要

第1章 地理学習における資料の類型化と活用の意義

第1節 資料の類型化

第2節 地理学習における映像資料活用の意義

第2章 授業実践の分析と授業に適した映像資料の条件の選定

第1節 映像資料を用いた授業実践の抽出

第2節 中学校地理的分野の学習に適した映像資料の条件の選定

第3章 映像資料を用いた中学校社会科地理的分野の授業案の構想

第1節 授業のねらいと意義

第2節 本時案の概要

終章 本研究のまとめと今後の課題

第1節 本研究のまとめ

第2節 今後の課題

別表 参考文献・論文・URL 一覧

### 2. 問題の所在と研究の目的と方法

#### (1)問題の所在

筆者が本研究を試みるにあたり、中学校社会科の授業における2点の問題意識を持っている。

1点目として、学習で特に使用される教科書の写真資料に偏りが生じているため、

資料活用に偏りが生じるという点である。

2点目には、資料活用の種類にも偏りが生じている点である。学習活動の調査において授業の中で「図や表の読み取り」「地図帳の活用」を授業の7割以上で取り入れているという回答が約47.0%であった<sup>1)</sup>という調査結果を報告している。約半数の教員が「図表の読み取り」や「地図帳の活用」に力を入れているが、その他の資料の活用も積極的に行わなければ学習指導要領に掲載されている中学校社会科の目標は達成できない。

筆者はこれらの問題点を克服するために、動画や映画等の映像資料を活用する機会を増やすべきだと考える。

映像資料に着目する理由は2点ある。1点目はどの学校にもテレビ等の視聴覚機器が揃い映像資料を活用しやすくなった点である。教室内にスクリーンやテレビが既に設置されていたり、スクリーンも持ち運びができるようになったり誰でも利用しやすくなった。2点目には教育映像やテレビ番組・動画投稿サイト等で数多くの映像を手軽に視聴することができるようになった点である。以上のことから、問題点を解決するために授業における映像資料の活用方法を研究対象とする。

#### (2)研究の目的と方法

本研究の目的は、中学校社会科地理的分野において映像資料の効果的な利用法を探求し、どのような学習が展開できるかということを確認にすることにある。中学校社

会科の中でも地理的分野に着目した理由は地理的分野の学習内容にある。世界や日本の人々の生活や環境、地域的特色を学習する内容が多い。教科書の写真がどのような状況を表しているのか、映像資料を視聴することで、実体験に近い形で学習することができるため地理的分野に限定した。

本研究の方法として映像資料を含む授業に用いられる資料の類型化を行う。そして、授業に映像資料を用いるメリットやデメリットについて考察した後に、映像資料を用いた授業実践の分析を行う。分析の中で、映像資料の活用方法を筆者が提唱した資料の類型と照らし合わせて考察していく。そこから、地理的分野の学習に適した映像資料の条件の選定を行う。最後に、その条件に適した映像資料を用いて単元案と本時の指導案を作成したい。

### 3. 論文の概要

#### (1)第1章

第1節では地理学習における資料の類型化を行った。今谷順重氏は資料を社会科の観点から種類と特性を6つに分類した。谷川彰英氏は社会科で使用する資料を形態面からと学習機能から見た時の分類を行った。外池智氏は前者の今谷氏と谷川氏の資料分類を踏まえて、地域素材を学習材の観点から資料の分類を行っている。(三者の資料分類の表は割愛させていただく。)

筆者は三者の資料分類をもとに「①文字資料」「②図像資料」「③映像資料」「④音声資料」「⑤地図資料」「⑥統計資料」「⑦現物資料」「⑧模型資料」「⑨人的資料」の9つに資料を類型化した。「⑨人的資料」は筆者

独自の項目で、学習内容に関わる人々の声、思いを収録したインタビュー資料を指す。また、谷川氏の学習機能からの分類を取り入れ、「①状況把握に用いられる資料」「②特色や傾向を掴むための資料」「③問題を探るための資料」「④学習活動を知るための資料」「⑤複数の感覚に訴えかける資料」に分類を行った。「⑤複数の感覚に訴えかける資料」は筆者独自の項目である。視覚や聴覚に訴えかけ、特に映像資料や現物資料、人的資料の項目に該当する。

第2節では、地理学習における映像資料活用の意義について述べた。『Benesse 発 2010年「子どもの教育を考える」』の研究員レポート「地上デジタルテレビ放送の教育利用とその効果<sup>2)</sup>」の調査から、地上デジタルテレビ放送を授業に用いることで「地上デジタルテレビ放送の効果は、視聴一週間後のテストにおいても検出されたため、子どもの知識獲得に寄与している。」「コンテンツの違いで効果は変動する。」等のメリットやデメリットの結果が得られた。

そこで筆者は映像資料でも同じことが言えるかどうか、田島祥氏・近江玲氏・坂元章氏の「概念地図及び描画を用いた動画コンテンツ活用授業の効果の検討<sup>3)</sup>」に基づき検証を行った。その結果、上記のメリットやデメリットは映像資料でも同様のことが言えることが判明した。

#### (2)第2章

第1節では映像資料を用いた授業実践の抽出を行った。歴史教育者協議会が発行している『歴史地理教育』と、明治図書が発行している『社会科教育』の2014年1月号～2009年1月号を調査した結果、該当数

は19実践あった。さらに分析を行うと「授業内で映像資料を視聴するタイプ」と「授業で映像を撮影するタイプ」の2種類に分かれた。さらに、このタイプによって、該当する筆者が提唱する学習機能に差が出た。「①状況把握に用いられる資料」「②特色や傾向を掴むための資料」は前者に多く該当し、「③問題を探るための資料」「④学習活動を知るための資料」は後者に多く該当した。また「⑤複数の感覚に訴えかける資料」は両者それぞれに該当した。

そして、第1節で抽出した授業の中から2つの実践を取り上げ分析した。

1つ目は武田竜一氏の『「東アジア」の地誌学習—激安ジーンズの秘密<sup>4</sup>』である。本実践は中国国内の経済の様子を通して、激安ジーンズを生産することができる秘密を探ることができることがねらいである。

本実践の特徴は2つの映像資料を組み合わせている点である。ニュース番組を用いて中国国内の様子を概観し、工場見学をテーマとしたバラエティ番組を用いて、激安ジーンズが生産される様子を知ることができる。2つの映像資料を組み合わせることで効率よく授業のねらいを達成しているが、授業全体の資料数が多いため資料の厳選が必要である。

2つ目は坂井ふき子氏の『社会参画の視点を取り入れた身近な地域の調査<sup>5</sup>』である。本実践は「FC（フィルムコミッション）の活動の様子や携わる人々の取り組みについて学習することを通して、フィルムツーリズムという観光資源の可能性、映画・映像による地域振興の可能性からまちづくりにについて未来予測」することができるがねらいである。

本実践の特徴は自分たちの居住地のロケーションマップ作りを行い、地域資源や地域の魅力を再発見する点である。ロケーションマップ作りでは実際に撮りたい映画のシーンを考えながら撮影を行いつつロケーションマップが良かったか発表会とミニ討論を行う。本実践で非常に優れていると筆者が考える点は、他の実践と異なり、学習機能「③問題を探るための資料」「④学習活動を知るための資料」をカバーしている点である。しかし、生徒たちが映像撮影に積極的に関わるだけで「自分たちが住む地域の課題や地域の将来像」考えることができるかという点に対し疑問が残った。

第2節では中学校地理的分野の学習に適した映像資料の条件の選定をした。映像資料を構成する要素の中でも、「ナレーション・テロップ」「カットイン・BGM」の要素を本節で分析した。ここでは、映像教材や映像視聴能力を研究している浦野弘氏・南部昌敏氏による「映像教材の構造に着目した分析的視聴方法の研究開発<sup>6</sup>」をもとに分析を行ったところ「ナレーション・テロップ」は映像資料の内容を理解する上で重要な要素であることが判明した。また、音楽と映像の関係を研究する森山剛氏と坂内正夫氏によると、映像の中でも、特に映画やドラマでは「シナリオの指示には現れないカットインにおける効果、BGM、効果音、セリフの間（ま）といった要素<sup>7</sup>」でも「意味内容及び心理的内容が伝達<sup>8</sup>」されると述べている。「カットイン・BGM」も映像資料の内容を理解する上で重要な要素であることが判明した。

### (3)第3章

第1節では授業案の題材の選定を行った。筆者は、アジア州を題材として取り上げた。その理由は2点ある。1点目は、世界の国々にも日本にも関わる学習内容であること。2点目には、アジア州は他の州と比べ、地域によって文化に大きな違いがあるためアジア州を題材とした。

第2節では第1節で構築した単元案の中から、生徒自らがアジア人の一員としてアジアの文化や他のアジア人と向き合い受け入れようとする姿勢をとることができるようになることをねらいとした授業案を作成した。本実践では、映像資料の読み取りを通して、文化や慣習の違うアジアの人たちと関わる中でどのようなことを大切にしたいか考えていくことをメインとしている。映像資料は「ドキュメント 72時間 上野アメ横・多国籍地下マーケット」(NHK、2014年10月17日放送)の後半部分を視聴する。この映像資料を選択した理由はアジアの文化だけでなく、アジア人も日本に密接に関わっていることを生徒に知ってもらいたいからである。

#### 4. 今後の課題

筆者は本研究の今後の課題について大きく2点あると考える。

1点目は映像資料の選定条件の明確化である。本論文では授業に適した映像資料の選定条件をどのようなジャンルの映像資料でも使用される「ナレーション・テロップ」と「カットイン・BGM」か

ら抽出した。しかし、映像番組の進行やドラマ等の脚本についても映像資料を選定する条件に入れるという一考の余地があると考えられる。2点目は授業において映像資料を映しだすスクリーンや電子黒板等の活用方法についてである。本論文では授業で用いる際の、映像資料の再生・放送媒体である動画投稿サイトやテレビ・DVD・BD再生機器のメリットやデメリットには触れた。しかし、映像を映すスクリーンや電子黒板の活用方法まで研究が至らなかった。また、近年ではタブレット端末も授業に活用しようという流れも出てきているためそれも含めて今後は考察したい。

1 ベネッセ教育研究開発センター「中学校の学習指導に関する実態調査報告書 2012」

[http://benesse.jp/berd/center/open/report/gakusyuu\\_jittai/2012/pdf/data\\_03.pdf](http://benesse.jp/berd/center/open/report/gakusyuu_jittai/2012/pdf/data_03.pdf)

2 『Benesse 発 2010 年「子どもの教育を考える」』黒木研史著「第4回 地上デジタルテレビ放送の教育利用とその効果」

([http://berd.benesse.jp/berd/berd2010/center\\_report/ict04.html](http://berd.benesse.jp/berd/berd2010/center_report/ict04.html))

3 日本教育工学会編『日本教育工学会論文 34』(2010年、日本教育工学会)77～80頁。

4 歴史教育者協議会編『歴史地理教育』794号(播磨書房、2012年)32～37頁。

5 明治図書編『社会科教育』(明治図書、2009年)90～91頁。

6 浦野弘・南部昌敏氏著『教育メディア研究 9』No.1(日本教育メディア学会、2002年)23～34頁。

7 森山剛・坂内正夫著「ドラマ映像の心理的内容に基づいた要約映像の生成」電子情報通信学会編『電子情報通信学会論文誌』J84-D-II(6)(電子情報通信学会、2001年)1123頁より引用。

8 前掲著 7 1123頁より引用。